

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
近畿医療専門学校	平成20年3月24日	小林 英健	〒530-0047 大阪市北区西天満5-3-10 (電話) 06-6360-3003				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人近畿医療学園	平成20年3月24日	小林 英健	〒530-0047 大阪市北区西天満5-3-10 (電話) 06-6360-3003				
目的	近畿医療専門学校鍼灸学科は、はり師きゅう師に関する知識・技術の習得を関連企業、業界団体等と密接に連携しながら職業教育としての水準向上を図っていく。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸学科 午後コース	平成23年文部科学省告示第166号				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	119	88	15	1	0	15
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人		56人	9人	9人	18人		
学期制度	■前期:4月1日～9月末 ■後期:10月～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 所定の出席時間を満たすこと。 各科目100点をもって満点とし、成績により優・良・			
長期休み	■夏季:8月上旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月初旬 ■学年末:3月中旬～3月31日		卒業・進級条件	課程における単位を全て修得し、定められた学納金を完納していること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 科目等履修生制度(学則第21条)を利用し、卒後も必要な知識・技術の修得を可能にしている。定期的にセミナーを開き、		課外活動	■課外活動の種類 スポーツチームの練習・試合のボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 鍼灸院、整骨院など ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 33% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	はり師、きゅう師			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成28年4月1日時点におい 在学者 46名 平成29年3月31日時点にお 在学者 40名 ■中途退学の主な理由 経済的事由、学業不振など		■中退率 6.6% (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)				
ホームページ	■中退防止のための取組 クラス担任で定期的に個別の面談を行い、問題があれば科で対応を行っている。経済的な理由により学業の継続が困難な学生に対しては、専門の事務職員が各種奨学金等の情報提供を行っている。学業不振者には、個別の補講などで学業成績の向上を図っている。 http://www.kinkiisen.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の連携企業には、森田鍼灸整骨院、横大路アールエイ鍼灸整骨院、コリトレール株式会社がある。
これらは、鍼灸院、整骨院、リラクゼーション施設を運営する企業で我々の業界の現場である。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
組織図は別紙参照。教育課程編成委員会で審議された内容に関しては、校務運営会議にて再度審議し、各部署に必要な情報の提供を行う。各部署は、提供された情報を参考に会議等を通して教育の質の向上に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月10日現在

名前	所属	任期	種別
劉 勇	国立中国北京中医薬大学 顧問	平成27年4月1日～平成30年3月31日	②
青柴 謙司	横大路アールエイ鍼灸整骨院	平成28年4月1日～平成31年3月31日	③
松本 利明	大阪府府議会議員	平成28年4月1日～平成31年3月31日	①
坂本 博	近畿医療専門学校 副校長	平成27年4月1日～平成30年3月31日	
笠置 里美	近畿医療専門学校 事務長	平成27年4月1日～平成30年3月31日	
平口 昌幹	近畿医療専門学校 鍼灸学科長	平成27年4月1日～平成30年3月31日	
池之上 慎	近畿医療専門学校 鍼灸学科教員	平成27年4月1日～平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年に2回以上行い時期は、3月、9月を目安とする。必要に応じ、随時委員会を開催する。

(開催日時)

第1回 平成29年9月6日 14:00～16:00(予定)

第2回 平成30年3月7日 14:00～16:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

多様化する患者の疾病構造を、現場の第一線で活躍されている先生から情報をもらい、その情報に沿った内容を吟味し、授業展開を再考している。(教員と関連企業との打ち合わせは不定期に必要なに応じて行っている)場合によっては、学外授

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の規定に準ずると、現場の臨床に携わっている先生が直接講義をするのが難しいため(教員資格が必要となるため)、教員が講習や意見交換をうけたり、授業に同席して助言を仰ぐ形

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

必要に応じて、企業と教員が意見交換を行っている。

正規のカリキュラム外で、実習見学先として本校学生に勉強の機会を与えてもらっている。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床鍼灸実技Ⅰ	中医学をベースとした、臨床応用について専任教員と連携し実技を通じ、教授する。	森田鍼灸整骨院
臨床鍼灸実技Ⅰ	バイオメカニクスに基づく理論と、その臨床応用についての実践を専任教員と連携し、教授する。	横大路アールエイ鍼灸整骨院

3 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

それぞれに期待する専門分野に関する知識を向上させるため、研修に参加させていく。
「教科科目」「教務事務」「学生指導」と専門分野を分け、それぞれに合った研修会に参加させる。
研修会への参加は、法人本部、校長、事務長、学科長で協議した上で、適示指示する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
2016年9月「第6回学術総会 日本中医学会主催」
2016年11月「世界鍼灸学会連合会学術大会 全日本鍼灸学会・日本伝統鍼灸学会主催」

② 指導力の修得・向上のための研修等
2016年3月「大専各教職員研修会」
2016年8月「教員研修会 柔道整復学校協会主催」

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
2017年6月「第66回全日本鍼灸学会学術大会 全日本鍼灸学会」
2017年9月「第7回学術総会 日本中医学会主催」

② 指導力の修得・向上のための研修等
(時期未定)大専各教職員研修会

4 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、本校教職員、業界の実務者、卒業生、地域の方と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育環境等について評価し、教育理念、学校運営、教育活動、学生支援などの改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学習成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者から出た意見を集約し、校務運営会議にて、学校運営・教育に反映することが適切であると判断された場合、その結果を活用する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月10日現在

名前	所属	任期	種別
亀井 一郎	大阪市北区西天満連合会振興町会	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	地域
小林 栄美	大阪医療技術学園専門学校 東洋医療技術教員養成学科	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生
牧 良平	寺本鍼灸整骨院	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <http://www.kinkiisen.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況を把握してもらうため、積極的に教育活動をHP等で情報を公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	教育活動
(3)教職員	教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	学校運営
(10)国際連携の状況	
(11)その他	法令等の遵守、社会貢献・地域貢献

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.kinkisen.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			健康科学	本授業では栄養の分野で明らかにされた科学的事実を用いて、人々の疾病予防と健康増進に役立てるための理論と方法を学ぶ。	2	30	2	○			○			○		
○			社会体育Ⅰ	体力向上とともに協調性・社会性・責任感を養う。	3	30	2	○	△		○				○	
○			社会体育Ⅱ	体力向上とともに協調性・社会性・責任感を養う。	3	30	2	○	△		○				○	
○			社会科学Ⅰ	医療従事者として知っておきたい経済情報、情報管理の仕方について理解する。	3	30	2	○			○				○	
○			社会科学Ⅱ	医療従事者として知っておきたい経済情報、情報管理の仕方について理解する。	3	30	2	○			○				○	
○			人文科学Ⅰ	簡単な日常会話、英作、リスニングをバランス良く学習し、英語の基礎的な能力向上を図る。また、患者とのコミュニケーション方法について学ぶ。	1	30	2	○			○				○	
○			人文科学Ⅱ	メンタルヘルスの基礎的な知識の習得および観察力・思考力の養成を目指す。	3	30	2	○			○				○	
○			解剖学Ⅰ	特に、運動器系(骨格・筋)の分野は治療をする上で、必ず理解しておかなければならないことの一つである。骨の名称、筋肉の走行などを中心に授業を行う。	1	68	4	○	△		○				○	
○			解剖学Ⅱ	呼吸器、消化器、泌尿生殖器、内分泌、感覚器の理解を深める。	1	68	4	○			○				○	
合計						57 科目		2400 単位時間(119 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	34 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			解剖学Ⅲ	循環器系及び、神経系における基礎知識を理解し覚える。	1	68	4	○			○		○		
○			解剖学Ⅳ	解剖学の総括的な知識を習得する。	3	68	4	○			○		○		
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄、内分泌におけるの知識を学習する。	1	68	4	○			○		○		
○			生理学Ⅱ	生殖・成長と老化、神経、筋、運動、感覚、生体防御機構、身体活動の協調におけるの知識を学習する。	2	68	4	○			○		○		
○			病理学概論Ⅰ	細胞レベルでの病気の発生、経過、状態を学習する。	2	34	2	○			○		○		
○			病理学概論Ⅱ	細胞レベルでの病気の発生、経過、状態を学習する。	2	34	2	○			○		○		
○			衛生学 ・ 公衆衛生学Ⅰ	疾病予防や健康の保持・増進の知識と技術を習得するとともに、これらが展開される	2	34	2	○			○		○		
○			衛生学 ・ 公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生のための制度・対策の概要を講義する。生活環境と疾病との関係を講義する。	2	34	2	○			○		○		
○			リハビリテーション医学Ⅰ	医療従事者に必要なリハビリテーション医学について学ぶ。また、鍼灸師として遭遇し得る疾患とそのリハビリについて学ぶ。	2	34	2	○			○		○		
合計					57 科目			2400 単位時間 (119 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	34 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リハビリテーション医学Ⅱ	医療従事者に必要なリハビリテーション医学について学ぶ。また、鍼灸師として遭遇し得る疾患とそのリハビリについて学ぶ。	2	34	2	○			○	○			
○			医療概論・関係法規	はり師きゅう師に必要な医学的知識を包括的に学ぶ。医療従事者として必要な法的知識を学ぶ。	3	30	2	○			○	○			
○			経絡経穴概論	任脈・督脈、生経十二経に属する経穴の取穴法について学ぶ。	1	68	4	○	△		○	○			
○			東洋医学概論	東洋医学の基礎理論（陰陽五行、気血津液、臓象など）、病因・病機、診断学を学ぶ。	1	68	4	○			○	○			
○			はりきゅう理論	様々な鍼灸道具や鍼灸の手技などに関する基礎的な知識を身につける。また、はり・きゅうがどのような仕組みによってその効果を発揮しているのかについて現代科学的な視点から捉えていく。	3	34	2	○			○	○			
○			東洋医学臨床論	疾病の鍼灸治療について現代医学的、東洋医学的それぞれの観点から学ぶ。病態あるいは病証の理解を深めることでより臨床的な思考力を養う。	2	68	4	○			○	○			
○			臨床医学総論Ⅰ	患者との医療面接、診察法、症候について十分な理解と技能の習得を目指す。	2	34	2	○			○	○			
○			臨床医学総論Ⅱ	患者との医療面接、診察法、症候について十分な理解と技能の習得を目指す。	2	34	2	○			○	○			
○			臨床医学各論Ⅰ	はり師きゅう師が知っておくべき各種疾患の特徴を学ぶ。それとともに疾病のメカニズムやその原因について理解を深める。	2	34	2	○			○	○			
合計				57 科目	2400 単位時間(119 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	34週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			臨床医学各論Ⅱ	はり師きゅう師が知っておくべき各種疾患の特徴を学ぶ。それとともに疾病のメカニズムやその原因について理解を深める。	2	34	2	○			○	○			
○			臨床医学各論Ⅲ	運動器の各部位機能解剖を学び、それぞれの特徴的な疾患・症状などに対する整形外科的アプローチを理解する。	3	34	2	○			○	○			
○			社会保健学	医療従事者として社会に貢献するために必要な知識を学ぶ。	3	30	2	○			○	○			
○			基礎鍼灸実技Ⅰ	はり・きゅうに関する基礎知識を学ぶとともに基礎技術の反復練習を行う。人体へ安全に刺鍼・施灸する知識と技術を身につけ、基礎力の確立を図る。	1	68	2			○	○	○			
○			基礎鍼灸実技Ⅱ	はり・きゅうに関する基礎知識を学ぶとともに基礎技術の反復練習を行う。人体へ安全に刺鍼・施灸する知識と技術を身につけ、基礎力の確立を図る。	1	68	2			○	○	○			
○			応用鍼灸実技Ⅰ	基礎的な技術の修練に加え、より臨床に近づいた取穴の方法や刺鍼・施灸技術の習得を目指す。	2	68	2			○	○	○			
○			応用鍼灸実技Ⅱ	基礎的な技術の修練に加え、より臨床に近づいた取穴の方法や刺鍼・施灸技術の習得を目指す。	2	68	2			○	○	○			
○			鍼灸診察実技	実技を通して、鍼灸臨床に必要な診察法を習得する。	2	34	1			○	○	○			
○			取穴実技	経絡経穴概論で学習した内容を基礎に、実際の体表での取穴を実技にて行う。	2	68	2			○	○	○			
合計				57 科目	2400 単位時間 (119 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	34 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床鍼灸実技Ⅰ	臨床現場で遭遇しやすい疾患をテーマに、それに対する知識、技術を習得	3	68	2			○	○		○		
○			臨床鍼灸実技Ⅱ	運動器の各部位機能解剖を学び、それぞれの特徴的な疾患・症状などに対する整形外科的アプローチを理解する。	3	68	2			○	○		○		
○			臨床実習	基礎的な実技と理論を実際の臨床の中で使えるよう、総合的に学ぶ。	3	45	1			○	○		○		
○			総合医学演習Ⅰ	解剖学と生理学の知識をより深め、知識の底上げを図る。循環系・内臓系を中心に。	1	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅱ	解剖学と生理学の知識をより深め、知識の底上げを図る。神経系・運動経を中心に。	1	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅲ	東洋医学の知識を実際の鍼灸臨床に役立つように知識を深めることを目的とする。	1	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅳ	東洋医学・西洋医学の知識を実際の鍼灸臨床に役立つように知識を深めることを目的とする。	1	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅴ	鍼灸治療に必要な刺鍼方式、術式および一般治効理論を実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。	2	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅵ	国家試験合格レベルまで知識を高められるよう問題に取り組む。	3	34	2	○	△		○		○		
合計			57 科目		2400 単位時間 (119 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	34 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合医学演習Ⅶ	国家試験合格レベルまで知識を高められるよう問題に取り組む。	3	34	2	○	△		○		○		
○			総合医学演習Ⅷ	国家試験合格レベルまで知識を高められるよう問題に取り組む。	3	34	2	○	△		○		○		
○			総合学習Ⅰ	鍼灸治療の考え方などについて学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅱ	生理学の内容を中心に重点ポイントを学習する。	1	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅲ	解剖学の内容を中心に重点ポイントを学習する。	1	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅳ	経穴の取穴にランドマーク（骨指標）が確実に触診できるように実践形式も取り入れながら習得していく。	2	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅴ	東洋医学の知識をさらに深めるため、漢方に関する基礎的な知識を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅵ	東洋医学の知識をさらに深めるため、推拿に関する基礎的な知識を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
○			総合学習Ⅶ	実際の臨床の現場において即戦力となる知識と治療方法をさらに熟知することを目的とする。	3	30	1	○			○		○		
合計					57 科目		2400 単位時間 (119 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	34 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸学科午後コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合学習Ⅷ	実際の臨床の現場において即戦力となる知識と治療方法をさらに熟知することを目的とする。	3	30	1	○			○	○			
○			総合学習Ⅸ	医療人として理解しておくべき病態生理学的基礎・代表的疾患・救急処置の概略を解説する。	3	30	1	○			○	○			
○			総合学習Ⅹ	国家試験過去問題を解かせて解説を行い、国家試験に対応できる知識を修得する。	3	30	1	○			○	○			
合計						57	科目	2400			単位時間(119		単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全単位の修得	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	34週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。